

21世紀水倶楽部だより

発行：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部
発行者：亀田 泰武
編集：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部 広報担当
〒171-0011 東京都豊島区目白2-1-1
URL <http://www.21water.jp/>
E-mail info1@21water.jp

第47号 2016年11月10日号

失われてはならない記憶

理事 阿部恭二

自身のルーツに興味を持ち、その探索過程で、今は亡き父母の

太平洋戦争中のエピソードに出くわしたことがある。父母はそれぞれ大正13年、大正15年の生まれだから、太平洋戦争中は少年期から青年期に向かう、青春時代まった中に当たる。もちろん、二人が出会う前の話だ。父は戦時中、おそらく戦争末期のことだろう、特攻隊員と



して死にゆく人たちの歌を集めて歌集を編んだ。歌集のタイトルは『明けゆく空』。父がどんな方法で歌を集め、費用捻出のためにどんな工面をしたのか、詳細はわからない。しかし、この歌集発刊がもたらした父は特高警察に目をつけられ、事情聴取もされ、さらに留置場にひと晩留め置かれたとも……。歌集『明けゆく空』がどんな姿かたちをしていたのか、目にしたことはない。

一方、母の話はこうだ。母は祖母と妹とともに米軍捕虜も収容されていた尾去沢鉱山に、勤労働員で狩り出されていた。捕虜たちは鉱山労働に従事させられていたのだろうか。彼らはタバコの吸い殻を集めては、監視者に見つからぬようにそれを隠した。後でこっそり吸うためだ。彼らはタバコに飢えていたのだ。ただ、捕虜たちのその試みは確実に成功するとは限らず、監視者に見つかれば、ひどく殴られた。母たちは戦々恐々としてその光景を潜めた眉の奥に収めた。だけでなく、いつからか、捕虜たちの試みを手助けするようになった。母たちが吸い殻をどんなふうに隠

し、どんなふうに捕虜たちに渡したのかはわからない。終戦を迎え、捕虜たちは解放されるが、尾去沢鉱山から陸中花輪までのパレードが行われている最中だった。米兵たちのパレードの中から、母たちに向かって放物線を描いて放り投げられたものがあった。——タバコだった。

二つのエピソードは、できすぎた話のようにも思われるが、実際にあったことなのかどうか、確認はしていない。しかし、父母の記憶はこれでいい。私自身がこうして父母のことを思い出すだけでいいと思っている。私自身のその思い出すという行為は間違いなくいずれ失われていくことになるのだが……。失われてはならない記憶というものがある。当会のHPで展開している「思い出の記」は、そんな失われてはならない記憶を集めたものだ。「思い出の記」を読んだ人たちはこれからの水循環を支えるために何かを学べるはずだ。

2016年度活動報告

「荒川・下水道フェスタ2016」活動報告

神山真一

○概要

埼玉県と埼玉県下水道公社の主催による「荒川・下水道フェスタ2016」が、10月15日（土）に開催され、NPO21世紀水倶楽部（以下、当会）も昨年に引き続きブースを出展した。

今年は埼玉県が流域下水道事業に着手して50周年であり、この「荒川・下水道フェスタ」も20回目を迎えた。当日は天候に恵まれ、ステージショー、金魚すくい、水循環センター探検ツアー、水質実験、観光物産、行政・NPO活動の展示等に多くの人達が訪れ、来場者数は過去最高の5,329人であった。

○展示内容

当会では、下水道をより多くの人達に理解していただくため、下水道の役割をテーマにパネルを展示するとともに、ブー

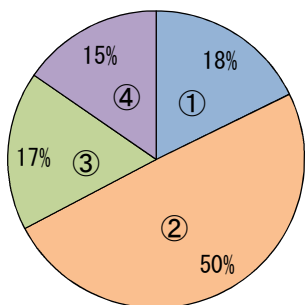
スに訪れた人達が、下水道の役割として、何が一番大切だと思っているかのアンケート調査を実施した。アンケートは、4つの下水道の役割 ①水洗トイレなどが使え、家や街がきれいになる、②よごれた水を処理し、川や海などがきれいになる、③雨水を排除して浸水から家や街を守る、④下水道から資源やエネルギーを取り出して活用する、の中から、自分が下水道の役割として一番大切だと思うところに、大人と子供（小学生以下）別々にシールを貼ってもらうというもので、地域の人達が下水道の役割に対しどのような意識を持っているかを把握することにした。

また、当会の活動内容のパネルを展示し、水環境の新たな課題に対する我々の取り組み等について広く情報提供を行った。

○アンケート調査の結果

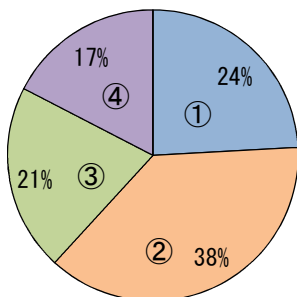
当会のブースを訪れた1,019人（大人422人、子供597人）を対象に、アンケート調査を実施した結果、大人と子供ともに下水道の役割として、質問②の割合が一番多かった。特に大人の割合が高く全体の半数（50パーセント）を占めた。次は大人と子供ともに①、③、④の順であった。

大人(N=422人)



- ①水洗トイレなどが使え、家や街がきれいになる
- ②よごれた水を処理し、川や海などがきれいになる
- ③雨水を排除して浸水から家や街を守る
- ④下水道から資源やエネルギーを取り出して活用する

子供(N=597人)



- ①水洗トイレなどが使え、家や街がきれいになる
- ②よごれた水を処理し、川や海などがきれいになる
- ③雨水を排除して浸水から家や街を守る
- ④下水道から資源やエネルギーを取り出して活用する



ブース前の状況



下水道の役割について説明



アンケート調査のシールを貼っている様子



タイの研修生にNPO活動の内容を説明

「興和淡心ビル」

中尾正和

昭和 49 年(1974 年)4 月下水道事業センターに入社して、関西支所受託工事課(後の日本下水道事業団大阪支社工事課/設計課)に配属された。関西支所は、昭和 47 年 11 月に設立されたセンター一本所(後の本社および東京支社)に続いて、昭和 48 年 6 月に設置されたものである。住所は「大阪市北区淡路町 4-54 興和淡心ビル」、「淡心」は、このビルが淡路町(あわじまち)の心齋橋筋(しんさいばしすじ)に位置することに由来することから、「あわしん」と読む。関西支所は大阪市下水道局から出向の谷和夫氏を支所長とし、総務課長は建設省近畿地建出身の吉田勇氏、受託工事課長は神戸市から出向の白水嘉夫氏、技術者は当初、大阪市と神戸市のみであったが、その後数年の間に近畿地建、尼崎市、大阪府、豊中市、川西市、倉敷市、新南陽市などの出身母体の人たちが続々と加わった。関西支所設立当時のメンバーは 10 人であったと記憶している。

辞令を携えて谷支所長に着任の挨拶に行った時のこと、九州の田舎から出てきた私を心配して下さって、「こういう都会には、きれいなベベを着た蝶々が仰山おりますから、くれぐれも気をつけとくんははれや」と訓示された。なぜ「きれいな顔」ではなく「きれいなベベ」だったのかは、ほどなく知ることになる。

当時、下水道設計歩掛は作成前であり、歩掛は県の災害査定用歩掛を使用した。それに含まれない工種には、水道設計歩掛や自治体独自の歩掛を使用した。また材料単価は県単価を原則として、それがない材料に対しては建設物価などを適用した。いろんな意味でルールが確定していなかったため、様々な自治体出身者がそれぞれのやり方を持ち寄り、そして時にはその正当性を主張し、予備知識のない私は右往左往しながらも、少しずつ仕事を覚えていった。栗石、捨コンの意味も十分に分からないまま、関数機能などまだ付いていなかった電卓をたたいて積算をしたことを思い出す。原紙に書き入れた数字をなんども消しゴムで消して修正し、その内に紙が破れて、最初から書き直さざるを得なくなったときには涙が出そうになった。まだゼロックスはなく、リコピー機の前に座りアンモニアの臭気に耐えながら、何百枚ものコピーを黙々と作ったことは、今ではいい思い出である。

- 巻頭文は阿部理事の亡父母の思い出の探索記。それと、当会 HP の「思い出の記」とを結びつけています。阿部氏の母祖の地は秋田県(尾去沢)ということです。そういえば阿部氏ご本人の容姿は女性だったら秋田美人でしょうか？
- この文で「思い出」されたといえば、編集幹事子には旧国鉄の花輪線(阿部氏文中、「陸中花輪」の記述あり)です。学生時代まで乗り鉄でしたが、花輪線は遠すぎて乗る機会がありませんでした。乗った国鉄(レア)路線は八高線、小海線、飯田線(いずれも東京に近間で、全線乗車)。ちなみに清水副理事長は撮り鉄それも車内トイレも、だそうです。
- 10 月 15 日開催の「荒川・下水道フェスタ」報告を中心となって実施された神山会員からいただき掲載しました。毎年のフェスタ開催に当会として分担していますが、色々と工夫され、成果も上がっているようです。文中にはありませんが、埼玉県近隣にお住いの会員を中心に活動されたようです。
- 会員だよりは中尾会員の下水道事業センター(のちの日本下水道事業団)関西支所(大阪市内)での思い出。JS の黎明期、それも、大阪という(特殊?) 地域での貴重な思い出の記、になっています。
- 中尾氏の文での関西支所の所在の淡心ビルのいわれですが、「淡」の淡路町は東西に長い一本の通りに面するだけの町(裏側の太閤背割下水が町境となった)のようですね。(「ブラタモリ大阪編」でのわか知識より)
- 会員だよりコーナーへの投稿を募集しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月